

事業所における自己評価表 (公表)

公表：令和2年3月

事業所名：仙台市サンホーム

		チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点 (現状および課題や改善すべき点含む)	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容または改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10 (66.7%)	4 (26.7%)	1 (6.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 2階は感覚統合あそびの部屋やホールとして使用できるとよい。 子どもと親とスタッフとなると大人数になる。 定員一杯にならなくてもきょうだい児や親、スタッフが入るとやや狭い。 今はクラス児童数が7-8名の人数なので妥当。 定員が10名になっていないため環境が整理しやすい。 構造化してやっているものの、部屋全体のスペースがとて狭い。 	<ul style="list-style-type: none"> 入園者数の増加に伴い、前期からクラス内の人口密度も高まる傾向がある。保育室数も限られ空間を分けての療育も困難であることから、園庭の活用や散歩の機会の増加などプログラム内容を工夫し、子ども同士の衝突等、けがの予防に努めている。 限られた空間内で子どもの特性を把握し、危険予知したかかわりが重要であるため、施設内設備や環境面において安全上必要な修理・改善を早急に進めている。
	2	職員の配置数は適切である	9 (60.0%)	5 (33.3%)	1 (6.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 現在の職員数は2クラス分に相当する。10組の親子に対しては最低4名のスタッフは必要。 活動や個別対応によって加減している。 国の基準とはいえ、やはり子と母の両方に支援となると人手が足りない。 母子ともにフォローが必要な家庭によりフリースタッフも少ない。 お母さんへの対応や母子分離などのとき人員が少ないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中入園児への対応や母子分離時、あるいは散歩等危険回避が必要な活動の場合はフリー職員(主任・副主任・看護師など)を随時配置している。 保護者自身の体調不良などで支援を要することも多く、タイムリーな対応を職員がいない場合は看護師や園長が対応している。 すぐには欠員補充も難しいが継続的に保育士を募集している 療育に必要な教材作成などは積極的にボランティアの協力を得ている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	<ul style="list-style-type: none"> クラスの部屋が10組の親子に対して狭くて危険。動きの大きな子どもが複数人居る場合は危険。2階のクラスはスタッフルームと離れており目や情報が届きにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの登園口の段差解消工事も終了し、バリアフリー環境にはなったが、今後は折りパイやハハパイでの活動が主となる子どもたちの床の冷たさ解消を検討予定である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	<ul style="list-style-type: none"> 動きが多い子どもが通園するところと考えられる狭い。運動体験がしっかりできる部屋(ホールなど)が必要。 毎日清掃、消毒をし、活動に合わせてパーティションを使い空間づくりをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 狭いながらも子どもの特性に応じたパーティションの活用や個別スペースの確保など安心して活動できる構造化を工夫している。 療育前後で清掃を行い、特に感染症の予防のためにも温度管理や加湿、定期的な換気に配慮している。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	15 (100%)	0	0	<ul style="list-style-type: none"> クラス会議で行っている。 職員会議や勉強会を実施し検討している。 定例会議だけではなく、早急に検討しねければならない事案については臨時的な会議を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1~3回の職員会議、月1回の療育会議を実施し、療育内容や業務についての問題を提起し、改善案を出し合っている。今後も継続してきたい。
業務改善	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	15 (100%)	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者にアンケートを取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の評価などは、会議内で共有して、改善の方向性を確認していくようにしている。
	7	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	13 (86.7%)	2 (13.3%)	0	<ul style="list-style-type: none"> ホームページがあるのかどうか分からない。みえていない。 保護者アンケートのなかで返せるものはスタッフで話し合い、可能な部分は返している。 ホームページの更新をより細めに行うことで情報公開の質が向上すると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価結果をもとに職員と協議して改善案を作成し、3月に公表している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	11 (73.3%)	3 (20.0%)	1 (6.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 理事に第三者(外部)が入ったほうがよい。 	
	9	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	15 (100%)	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 研修案内を掲示して希望を聞いてもらっている。 内部研修が行われている。 内部や外部の研修にスタッフ全員が積極的に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の療育スキルの向上を求められるため、常勤・非常勤問わずに内部研修・外部研修の機会を確保している。 外部研修参加者は必ず会議等で伝達講習するようにし、職員間で共有できるようにしている。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	15 (100%)	0	0	<ul style="list-style-type: none"> クラスで丁寧にアセスメントしている。 担当だけではなく、クラス担任、副主任らに確認してもらいながら作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員個々の経験年数も異なり、多職種がチームを組んで実施しているため、日々の療育の振り返りを実施している。また、療育会議は、他クラスの職員からの客観的な意見も確認できる機会になっている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13 (86.7%)	2 (13.3%)	0	<ul style="list-style-type: none"> 標準化されたものは使っていない。(参考にしている) 集団の中での観察から行っている。 特性シートを効率的に利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 特性シートの項目等を活用しアセスメントを整理している。今後は情報が整理しやすい、記録を簡素化できるシートを検討していきたい。
	12	児童発達支援計画には児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもに必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	15 (100%)	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 子ども本人と家族支援は個別プログラムで地域支援は子どもの様子のもとめを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの現状把握や進路先での課題を踏まえて具体的な支援内容を組み立てている。今後は入園者数の増加に伴い業務の効率化が求められることから支援内容を整理しやすいフォームなども検討していきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	15 (100%)	0	0	<ul style="list-style-type: none"> クラスで丁寧にやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に「家族からみた子どものようす」を記載してもらい、家庭での様子や保護者の思い・意向を盛り込んで具体的な計画を作成して支援を実施している。

適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	15 (100%)	0	0	・クラスで行っている。	・支援内容については、計画に基づきクラス担当を中心に副主任なども加わり客観的な視点を盛り込み、チームで取り組んでいる。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	15 (100%)	0	0	・クラスで工夫している ・季節のあそび、製作を行っている。	・発達課題と遊びのねらいを意識した上で、活動プログラムを作成している。遊びの広がりを大切に、同じ遊びの定着をねらう、成長を確認してステップアップさせる等、成長過程に応じたプログラム内容を保護者と共有して進めている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	15 (100%)	0	0	・工夫して作成している。	・数年前から個人の特性に応じた個別療育も試行してきた。今後はこの経験を生かして集団活動の中で特性と課題に配慮した個別活動を組み込んで計画立案していきたい。
	17	支援開始前には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認している	15 (100%)	0	0	・必ず打ち合わせをしている。 ・細かく打ち合わせをして役割分担を確認している。	・子どもが登園する前の20～30分間、クラス内で打ち合わせを実施し、当日の段取りや役割を確認している。
	18	支援開始後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	・記録を書きながら共有している。	・子どもが登園後にクラス担任全員で療育内の状態についての振り返りを実施している。活動全体の課題や子どもの行動面の変化、気持ちの汲み取りを共有し、次の活動計画に生かしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15 (100%)	0	0	・必ず記録している。 ・日々記録して次の支援につなげている。	・振り返りと記録を通して、子どもの成長の把握（モニタリング）を行い、支援の効果や修正等、支援内容の検討を行っている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	15 (100%)	0	0	・いつも毎回モニタリングしている。	・モニタリングは日々の振り返りのみならず、内部研修としてケースカンファレンスを実施している。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	15 (100%)	0	0	・園長・主任・地域相談員が参加している。	・子どもの状態像と支援の方向性に精通する職員として、クラス担任、主任、地域相談員などが参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	15 (100%)	0	0	・よくわからないが園長、主任、地域相談員が地域関係機関と連携している。	・アーチルや家庭健康課等と連携し、個別ケースのフォローアップを実施したり、地域相談員が保育所の相談支援のびすくすの活動に参画したりしている。今後は複数の保育園と連携するなど支援を拡充していく予定である。
	23	（医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	13 (86.7%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	・お母さんから通院のたびに情報をもらっている。	・定期的に受診している児童については、その都度受診結果を共有している。重症心身障害の受け入れの場合は、具体的な医療ケアについてかかりつけ医と連携し、研修体制も整備していきたい。
	24	（医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えている	9 (60.0%)	4 (26.7%)	2 (13.3%)	・体制としては整っていないのではないかな。	
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15 (100%)	0	0	・退園の際に引き継ぎ書を作成し、直接顔を合わせて引きついている。 ・全卒園児の引き継ぎを行い、保護者と共有済みの送り文書を進路先を提供している。	・進路先の保育所（園）や幼稚園に支援内容や情報の引き継ぎを実施している。進路先での適応状態の確認については3ヶ月目に電話フォローを行い、必要時保育所等訪問を実施予定である。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6 (40.0%)	6 (40.0%)	3 (20.0%)	・小学校までは追っていない。 ・要望がある場合のみ行っている。	・小学校特別支援教育の教員と連携し、卒園児や地域の保護者を対象に就学における講演会を実施しているが、今後は幼稚園や保育所にも呼びかけ展開していく予定である。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	15 (100%)	0	0	・研修をうけている。	・仙台市内の児童発達支援センターや県内の療育機関と日頃から研修や情報交換の機会を設けている。困難な事例についてはアーチルなど専門機関と連携を図っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	5 (33.3%)	10 (66.7%)	0	・地域相談員が実施しているのかもしれない。 ・今後は交流保育も希望。	・近隣の保育所との交流保育や行事を通して活動の場の共有を図りたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12 (80.0%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	・地域相談員が実施しているのかもしれない。 ・のびすく、泉区家庭健康課、地域子育て支援センター等が関わる会議や催しに参加している。	・今後も地域相談員を通して地域の子育て会議などに参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15 (100%)	0	0	・毎回しっかり共有している。 ・クラス会議、療育会議で共有している。	・年に2回プログラム説明時、年2～3回のクラス懇談、父親等家族参観・懇談のほか、必要時も個別面談を実施している。毎日の療育においても振り返りを実施し、成長の確認、課題の共有、認識のずれの解消などを心がけている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	15 (100%)	0	0	・保護者勉強会を実施している。 ・金曜日、保護者勉強会を行っている。	・今年度より「ペアレントプログラムの考え方」と題し、保護者勉強会を実施した。今後はシリーズで実施していけるよう計画していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	15 (100%)	0	0	・オリエンテーションで伝えている。	・対象者の理解に合わせた説明を心がけていきたい。

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14 (93.3%)	0	1 (6.7%)	・同意を得ている。	・今後も保護者の受け止めと理解の仕方を考慮し、丁寧な説明を心がけていきたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	15 (100%)	0	0	・相談があれば行っている。 ・定期的に個別面談を行っている。	・子育ての悩みについては、クラス担任が中心となり相談を受けているが、場合によっては主任や副主任、園長、地域相談員が担当し助言している。
	35	父母の会を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	15 (100%)	0	0	・支援している。 ・在園児、卒園児ともに勉強会や情報交換、交流のできる機会を企画している。	・保護者交流タイムや保護者勉強会を通して、保護者同士の連携づくりを支援している。障害の捉え方や子どもの成長の共有など、保護者同士が互いに気づき合えるよう心がけている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応している	14 (93.3%)	0	1 (6.7%)	・対応している。 ・園内外に地域支援事業の相談機能、体制について掲示している。	・苦情申し立て・解決の体制については、オリエンテーションで丁寧に説明しているが、日々の療育では小さな誤解を解消できるようクラス担任のほか主任・副主任、園長もわかり対応している。
	37	定期的に会報を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	15 (100%)	0	0	・毎月お便りを発行している。(2)	・月ごとの会報や保健だよりのほか、子育てや特性理解に役立つ参考本なども積極的に紹介している。
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	15 (100%)	0	0	・注意している。	・入園時に個別情報の取り扱いの承諾書を交わしているが、日々の療育においてもその都度写真撮影やSNS使用についての注意など繰り返し説明している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15 (100%)	0	0	・配慮している。	・保護者との情報共有や子どもの成長の確認などを療育内で丁寧に説明している。保護者の受け止め方を丁寧に確認して小さな誤解やずれを早期に解消できるよう努めていきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10 (66.7%)	4 (26.7%)	1 (6.7%)	・隣の児童館とは連携している。(児童館まわりの参加等) ・行事に地域の子ども等を招待し(近隣保育所の園児)交流を図る機会を検討したい。	・成長段階に配慮しつつ、近隣保育所児童との交流も検討していきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練を実施している	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	・実施している。 ・アレルギーに関する研修を実施したい。	・子どもや保護者参加の避難訓練やノロウィルス感染を想定した対応訓練、職員のみ救急蘇生・AED使用訓練などを毎年実施している。今後はアレルギーの研修会も実施予定である。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	・行っているが十分ではない。	・地震や大雨による休園時には園々に電話連絡を実施していたがタイムラグが発生するので、早急な連絡方法を再検討していきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	・自分のクラスはしているが他のクラスの子は把握していない。	・服薬状況等の確認のほか、てんかん発作時の対応やけがの適切な対処について内部研修を実施している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている	4 (26.7%)	9 (60.0%)	2 (13.3%)	・そこまでの子どもが今までいなかった。 ・アレルギーあるかないかの調査だけではなく、もっと細かくマニュアル等作成することが必要と思うため、今後整備が必要。	・現在、マニュアルを整備中である。今後アレルギーの勉強会を実施し、職員全体が確実な対応を可能にしたい。
	45	ヒアリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15 (100%)	0	0	・共有している。	・園内外に潜む危険場所のチェックなどリスクマネジメントの手法を通して内部研修している。今後さらに深めた研修内容にしていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	・虐待の特化した研修は行っていない。	・虐待予防の研修の強化のほか、誤解を受けないような行動についても職員全体で共有していきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11 (73.3%)	4 (26.7%)	0	・身体拘束についても研修等はしていない。 ・身体拘束は行っていない。	・虐待予防や身体拘束についてのマニュアル説明については新年度の集会以て周知している。職員全体が再認識できるよう努めたい。